シリーズ優勝に王手!! KeePer TOM'S LC500が今季2勝目!

10月8日午後、2017 AUTOBACS SUPER GT第7戦「Chang SUPER GT RACE」の決勝レースがタイのブリーラムにあるチャン・インターナショナル・サーキットで行われた。GT500クラスは37号車「KeePer TOM'S LC500」が、今季2勝目をポール・トゥ・ウインで決めた。GT300クラスは51号車「JMS P.MU LMcorsa RC F GT3」が、こちらも今季2勝目を手にした。

レース直前に短時間の豪雨！各チームはタイヤ選択に頭を悩ませる

SUPER GT第7戦タイの決勝日、チャン・インターナショナル・サーキットのコースを66周で争われる決勝レースは、午後3時(現地時間)にスタートした。午前中から降ったり止んだりを繰り返した予選日とは打って変わって、朝から好天に恵まれ、SUPER GT決勝を前に開催された3つのワンメイクレースはすべてドライでのレースであった。しかし、決勝を前に、上空には黒い雲がかかりはじめ、ポツポツと落ちはじめた雨は、2度にわたって激しく降った。これでコース上は完全にウエット。各車が急ぎレインタイヤに交換をしていく。しかし、強く降った雨はピタリと止み、上空には青空が広がってきて、陽も差してくる中、各車がスターティンググリッドを離れていく。

その中の1台、10番グリッドに着いていた24号車「フォーラムエンジニアリング ADVAN GT-R」はグリッドを離れることができず、ピットへと押し戻された。駆動系のトラブルということだったが、ピットでの作業の末、レースは半分ほど経過したところでコースに復帰。その後は他と遜色ない走りでレースを終えるも、周回数不足で順位外となった。

日射しが出たため、"ウエット路面がドライとなるのか?"を見極めるのは、非常に厳しい状況だ。GT500クラスでは、7番手スタートの1号車「DENSO KOBELCO SARD LC500」、11番手スタートの23号車「MOTUL AUTECH GT-R」、15番手スタートの19号車「WedsSport ADVAN LC500」の3車が、スリックタイヤでスタートした。

急なウエット路面となったため、セーフティカー先導でのスタートとなり、3周目のグリーンシグナルでレースはスタート。水煙が上がるほどのウエット路面の中、スリックタイヤを装着した3台は、スタート直後は1周あたり20秒以上離されるという厳しい展開となった。雨自体は止み、折からの気温30度だけに、レコードラインから徐々に水が捌けていく。レインタイヤとスリックタイヤのタイムが拮抗してきた9周の終わりに46号車「S Road CRAFTSPORTS GT-R」を筆頭に、レインタイヤからスリックタイヤに替えるチームも出はじめる。既にこの時点で各車の間隔は広がっており、さらにスリックタイヤスタート組に至っては6周目からすでにラップダウンされているという状況。各車がスリックに履き替えるため、ピットに戻る中、64号車「Epson Modulo NSX-GT」と8号車「ARTA NSX-GT」はコースにとどまり、NSX-GTのワン・ツーで周回を重ねた。しかし、トップを行く64号車のフロントボンネットが浮いている事象が発生。そして20周目に8号車、23周目には64号車がズルズルと後退をしはじめ、レースの1／3を経過したタイミングで両者ピットイン、64号車はタイヤ交換とともにボンネットをテープで固定してコースへ戻る。

ここで再びトップに戻ったのが、ニック・キャシディ選手が乗り込む37号車「KeePer TOM'S LC500」であった。そして、これに12号車「カルソニック IMPUL GT-R」、6号車「WAKO'S 4CR LC500」、17号車「KEIHIN NSX-GT」が続く。

トップ快走の「KeePer TOM'S LC500」がレースを終始リード!!

そしてレースも折り返しに差し掛かり、今度はルーティンのピットワークがはじまる。38号車「ZENT CERUMO LC500」が26周終わりでピットイン、ドライバー交代を行うと、それに続くように各車がピットへ戻っていく。トップを快走していた37号車も、レースを折り返した34周終わりで平川亮選手にバトンタッチ。その後、5番手を走行していた23号車はドライバー交代のみ、タイヤ無交換でコースに戻る。

全車がルーティンのドライバー交代を終えてコースに戻ると、トップ37号車に続き、6号車、12号車、17号車の順。各車の間隔は開いており、順位を争うバトルがなかなか見られないまま、レースは終盤へと進んでいく。

残り10周を切ると、8号車「ARTA NSX-GT」と23号車「MOTUL AUTECH GT-R」、そして46号車「S Road CRAFTSPORTS GT-R」の10番手、11番手争い、また64号車「Epson Modulo NSX-GT」に100号車「RAYBRIG NSX-GT」が迫るなど各車の間隔も狭まり、一つでも上のポジションでこのレースを終えたい、とでもいうようなバトルが展開された。

そして残り2周となった64周目、3番手を走行中の12号車「カルソニック IMPUL GT-R」がスローダウン、エンジントラブルによりマシンをコース脇に止めることとなってしまう。

ドライバーズポイントを69点まで伸ばし、ランキングトップへ浮上！

そのまま37号車「KeePer TOM'S LC500」がチェッカーを受け、開幕戦に続いて今季2度目の優勝を飾った。これでドライバーズポイントを69点まで伸ばし、ランキングトップへ浮上、ポイントリーダーとして、最終戦のもてぎに臨むこととなる。2位に入った6号車「WAKO'S 4CR LC500(大嶋和也選手／アンドレア・カルダレッリ選手)」が37号車に6ポイント差でランキング2位に。3位には17号車「KEIHIN NSX-GT(塚越広大選手／小暮卓史選手)」が入った。

第7戦後のドライバーズランキングでは、9位でゴールした23号車「MOTUL AUTECH GT-R」の松田次生選手／ロニー・クインタレッリ選手組はランキング3位。36号車「au TOM'S LC500(ランキングはジェームス・ロシター選手のみ)」、38号車「ZENT CERUMO LC500(立川祐路選手／石浦宏明選手)」がランキング4、5位となり、ここまでが最終戦もてぎにタイトルの可能性を残すことになった。